

ヤングケアラー実態調査

結果報告書 (概要版)

令和7年3月

和歌山市こども家庭センター

令和 6 年度生活実態に関するアンケート調査 (ヤングケアラー実態調査) 結果【概要版】

和歌山市では、ヤングケアラー支援の集中取組期間である令和 4 年度から、子供とかかわる関係機関に対し、ヤングケアラーについての知識の醸成や啓発を行うための講演会・研修会を実施してきました。令和 6 年 6 月に子ども・若者育成支援推進法が改正され、国及び地方公共団体等が各種支援に努める対象にヤングケアラーが明記されたことに伴い、本市のヤングケアラーの実態を精確に把握し、今後のヤングケアラー支援施策を検討するため、「生活実態調査に関するアンケート調査」を実施しました。その概要は、次のとおりです。

なお、詳細な調査結果については、和歌山市ホームページをご覧ください。

調査の概要

- 調査対象者 (児童生徒用)
 - ・市立小学校 5 年生及び 6 年生 (義務教育学校含む)
 - ・市立中学校 2 年生 (義務教育学校含む)
 - ・市立高等学校 2 年生 (全日制・定時制)
 (管理職及び教職員用)
 - ・市立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校の管理職及び教職員
- 調査期間 令和 6 年 9 月上旬～9 月 30 日
- 調査方法 無記名式アンケート (調査票を学校に配付し、原則教室にて回答)
- 対象者数/回答数/回収率

	対象者数		回収数		回収率	
	教員数	生徒数	教員数	生徒数	教員数	生徒数
小学校(5・6 年生) (義務教育学校含)	1,070 人	5,515 人	1,011 人	5,328 人	94.5%	96.6%
中学校(2 年生) (義務教育学校含)	522 人	2,227 人	490 人	2,124 人	93.9%	95.4%
高等学校(2 年生) (全日制・定時制)	80 人	252 人	80 人	250 人	100%	99.2%
	1,672 人	7,994 人	1,581 人	7,702 人	94.6%	96.3%

主な調査項目

(児童生徒)

- ・自身の生活状況
- ・家族のお世話の経験
- ・お世話の対象者・理由・内容
- ・お世話の頻度
- ・お世話に対する気持ち
- ・ヤングケアラーの認知

(管理職及び教職員用)

- ・ヤングケアラーの認知度
- ・児童虐待との関係
- ・ヤングケアラーの把握

など

調査結果のポイント

- 児童生徒に対する「お世話をしている人の有無」については、小学校で 11.6% (620 人/5,328 人)、中学校・高等学校で 7.1% (168 人/2,374 人) が「いる」と回答している。また、教職員に対する「ヤングケアラーの有無」については、9.7% (154 人/1,581 人) が「いる」と回答している。
- 「お世話をしている人」については、小学校、中学校・高等学校の両方の児童生徒において、「兄弟姉妹」、「母」、「父」の順となっており、教職員についても、同様の順となっている。
- 「お世話の内容」について、児童生徒については、「兄弟姉妹の世話」、「家事」、「見守り」、「買い物・散歩と一緒にいく」が主なものとなっている。
- 「お世話の相談の有無」については、小学校で 22.7% (141 人/620 人)、中学校・高等学校で 17.9% (30 人/168 人) となっている。
- 必要な手助け・サポートについては、小学校、中学校・高等学校ともに、「特になし」が最も多く、次いで小学校では、「何でも話せる人がいる」、「勉強を教えてくれる」、「相談しやすい場所がある」の順であり、中学校・高等学校では、「勉強を教えてくれる場所」、「お金の支援」、「話を聞いてくれる・相談しやすい大人」、「気軽に相談できる場所」の順となっている。
- ヤングケアラーの認知度は、児童生徒については、小学校で 69.9% (3,725 人/5,328 人)、中学校・高等学校で 56.9% (1,351 人/2,374 人) が「聞いたことがない」と回答。また、教職員については、99.4% (1,572 人/1,581 人) が「聞いたことがあり、内容も知っている」又は「言葉だけは聞いたことがある」と回答している。